からしだね

2021年5月号
(570号)

キリストの受難 カトリック池田教会
主任：ノノイ・プラザ神父
住所： 〒563-0041 池田市満寿美町9－26
TEL ： 072-751-2400 FAX：072-753-4624
URL(ホームページ)：http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm

本号の記事の主題など

受難の主日ミサ説教
2021.3.28 教皇フランシスコ
５月のガラスケースのみことば

4/24より公開ミサが中止されました
おしらせ 5月のアルファ・コース

10年間続いた釜石への援助を振り返って

今、ここにパンの増加の奇跡がある

今月の表紙の写真について

巻頭言

受難の主日ミサ説教

2021年3月28日　教皇フランシスコ

毎年、この典礼は、わたしたちに驚きをもたらします。エルサレムに来られるイエスを迎える喜びが、死刑を言い渡されて十字架にかけられるイエスを目の当たりにする悲しみへと一変するからです。聖週間の間中、その驚きは続きます。

最初から、イエスはわたしたちを驚かせます。イエスの民は、盛大にイエスを迎えますが、主は小さなろばの子に乗ってエルサレムに入られます。群衆は、過越祭に強力な救済者が来ると期待していますが、イエスは自らを犠牲にすることによって、過越を成し遂げるために来られます。群衆は剣でローマ人に打ち勝つことを望みますが、イエスは十字架によって神の勝利を示すために来られます。ほんの数日の間に、「ホサナ」と歓声をあげていた姿から、「十字架につけろ」と叫ぶ姿へと変わっていった群衆に、何が起こったのでしょう。どんなことが起きたのでしょう。彼らは、救い主その人ではなく、救い主のイメージの後を追っています。彼らはイエスを称賛しましたが、イエスによる驚きに身を任せてはいませんでした。驚きは称賛と同じではありません。称賛は、自分の好みや期待が反映されるので世俗的になりえます。一方、驚きは、他者やその新しさに向けて心が開かれることです。今日でも、イエスを称賛する人は大勢います。素晴らしいことをお話しになったから、愛してくださるから、ゆるしてくださるから、その模範が歴史を変えたから、などと言って称賛するのです。そうした人々はイエスを称賛していても、生き方は変えません。イエスを称賛するだけでは十分ではありません。イエスの後に従い、イエスに変えていただかなければなりません。つまり称賛から驚きへと進むのです。

主とその過越において、もっとも驚かされる点は何でしょうか。それは辱められることにより栄光を受けておられることです。イエスは、苦しみと死という、称賛や成功のためには避けたいと思うものを受け入れることによって、勝利しておられます。聖パウロが記しているように、イエスは「かえって自分を無にして、へりくだって」（フィリピ2･7、8）おられました。全能の神が無になられること、すべてを知っておられるみことばが十字架の上から沈黙のうちに教えておられること、王の中の王が処刑台を王座としておられること、すべてを治める神が何もかもはぎ取られ、栄誉ではなく、いばらでできた冠をつけられていること、人となられた善なるかたが侮辱され踏みにじられていること、これらすべてを目の当たりにすることこそ、驚くべきことです。どうして、そのように辱められたのでしょうか。主よ、どうしてあなたは、それらすべてがなされるがままに任せたのですか。

イエスがそうされたのは、わたしたちのため、わたしたち人間の現実の底に触れるため、わたしたちの存在のすべてを、わたしたちのすべての悪を過ぎ越すためです。わたしたちに寄り添い、痛みや死の中に置き去りにしないためです。わたしたちをあがない、救うためです。イエスは、わたしたちの苦しみへと下るために、十字架上に高く上げられました。イエスは、挫折し、何もかも失い、友から裏切られ、神にも見捨てられるという、わたしたちにとって最悪の状態を体験されました。わたしたちの心の底の葛藤を身をもって体験することにより、イエスはそれらをあがない、変えてくださいました。イエスの愛は、わたしたちの弱さに近づき、わたしたちがもっとも恥じているところに達します。今はもう、ひとりではないことが、わたしたちには分かります。神はわたしたちのどんな傷にも、どんな恐れにも寄り添っておられます。どんな悪にも、どんな罪にも決定的な力はありません。神は勝利されますが、勝利の棕櫚（しゅろ）の枝は、十字架の木を過ぎ越します。棕櫚の枝と十字架は一つなのです。

驚きの恵みを願い求めましょう。驚きがなければ、キリスト者の生活は暗く沈んでしまいます。わたしたちをゆるし、再びやり直させてくださる、イエスの並外れた愛に日々、驚いていなければ、イエスと出会う喜びを語ることなどどうしてできるでしょうか。信仰に驚きがなければ、その信仰は無感覚になり、恵みの素晴らしさも感じられなくなります。いのちのパンやみことばの味も分からなくなり、兄弟姉妹や被造物というたまものの素晴らしさも、感じられなくなります。そして、律法主義や聖職者至上主

義など、マタイによる福音書の23章でイエスが非難しておられるものに頼らずにはいられなくなります。

この聖週間の間、驚きの恵みを受けるために、十字架を仰ぎ見ましょう。アシジの聖フランシスコは十字架にかけられた主を仰ぎ見て、仲間の修道士たちが泣いていないのを見て驚きました。わたしたちはどうでしょうか。今も神の愛に心を揺り動かされているでしょうか。どうして、主のみ前でもう驚けないのでしょうか。なぜでしょうか。おそらく、慣れてしまうことにより、わたしたちの信仰が鈍感になってしまったのでしょう。もしくは、後悔の念に捕らわれ、不満によって身動きができなくなっているのでしょう。もしかしたら、信頼をことごとく失い、自分は過ちを犯したと思っているかもしれません。この「もしかしたら」の背後には、驚きの恵みを与えてくださる聖霊のたまものに心を開いていないという事実があるのかもしれません。

さあ、驚くことから始めましょう。十字架上のイエスを仰ぎ見て、こう言いましょう。「主よ、あなたはこんなにもわたしを愛してくださいます！あなたにとって、わたしはどれほど大切な存在なのでしょう！」イエスによって驚かされましょう。そうすれば、やり直すことができます。いのちの大きさは、所有物や獲得した地位によって決まるのではなく、愛されたという自覚によって決まるからです。いのちの大きさは、愛されているという気づきです。そして、いのちの大きさは、まさに愛の美しさのうちにあります。十字架につけられたイエスのうちに、わたしたちは侮辱された神、小さくされ、見捨てられた全能の神を見ます。そして、見捨てられた人、侮辱されて生きている人に近づくとき、自分たちはイエスを愛しているのだということに、わたしたちは驚きの恵みによって気づきます。主は、もっとも小さくされた人々の中に、拒絶された人々の中に、わたしたちの偽善的な文化が非難する人々の中におられるからです。

今日の福音は、イエスが息を引き取られた直後に、驚きのもっとも素晴らしい象徴を示しています。それは、「イエスがこのように息を引き取られたのを見て、『本当に、この人は神の子だった』と言った」（マルコ15･39）百人隊長の姿です。彼は愛によって驚かされました。イエスのどのような死を目撃したのでしょう。愛しながら亡くなられた様子を見たからこそ、彼は驚いたのです。イエスはひどく苦しみましたが、愛し続けました。そのことが、死さえも愛で満たしてくださる神のみ前で、彼を驚かせたのです。これまで接したことのない無償の愛により、異教徒であった百人隊長は、神を見いだします。「本当に、この人は神の子だった」という彼のことばが、受難の最後に語られます。彼の前に福音に登場した大勢の人は、イエスが奇跡や不思議なわざを行ったから、イエスを称賛し、神の子だと認めました。しかし、イエスは彼らを黙らせました。神は強くておそろしいかたとして、あがめられ、おそれられる存在であるという考えのもとに、彼らが世俗的な称賛のみに留まる恐れがあったからです。もう、そんなことはありません。十字架のもとでは、誤りは起こりえません。神がご自身を現わされ、無防備で、相手の敵意をも鎮める力のみによってお治めになるのです。

兄弟姉妹の皆さん、神は今も、わたしたちの精神と心を驚きで満たし続けておられます。十字架にかけられた主を、驚きをもって仰ぎ見て、こう言いましょう。「あなたは本当に神の子です。あなたこそわたしの神です。」

５月のガラスケースのみことば

恐れてはなりません。
あなたは神から恵みをいただいたのです

ルカ　1・30
（福音宣教委員会撰）

大阪府に緊急事態宣言、教会公開ミサが中止

４月２４日に緊急事態宣言が大阪府や兵庫県などに発令されました。これを受けて池田教会の24日以降の公開ミサは中止となりました。その期間は緊急事態宣言の終了日までです。

諸集会の開催なども控え、新型ウイルスの変異株に感染しないように備え、静かな生活を送りましょう。

お知らせ　５月のアルファ・コース

5月のアルファ・コースは予定通り15日と29日の10時~12時30分にカール記念館1階集会室で開催します。

会費：不要（当分の間、昼食は休止させて頂きます）。

未信者のご家族やお友達をお誘い頂ければ幸いです。

問い合わせ先:アルファコース代表
松下良博　Tel 090-8650-7179
福音宣教委員会

10年間続いた釜石への援助を振り返って

社会活動委員会東北支援担当

東北大東北大震災が起こった時、池田教会でもでもただ単に募金をするのではなく血の通った顔の見える援助がしたいと考えました。ちょうど、染野神父さまが池田教会に赴任して来られましたので釜石教会と繋がりました。また、シナピスからも色々な要請が来る様になりました。そこで釜石教会とシナピスの要請に従うことを援助の柱にしました。釜石教会には電話にすぐ応えていただき必要な物資を具体的に教えてもらい、運んで行ったり、送ったりし始めました。

要請がある度に皆様に呼びかけ随分色々なものを持ち寄って下さったのを覚えておられますか？包丁、鍋、食器などの台所用品、タオルや石鹸の衛生用品、ショール、衣類、傘などなど、日常生活に必要な物を何箱も、送りました。夏になると、蚊除けや蠅取り紙も送りました。

少し落ち着いてからは、集会用のコーヒーやお菓子を毎月、夏祭り用品、クリスマス用品、クリスマスパーティ用の袋詰めお菓子、いろんな方に焼いていただいた手作りケーキ、クリスマスプレゼント、一人一人のメッセージつきのクリスマスカードなどさまざまなものを送りました。

ガレージセールとバザーの時には東北物産の販売もしました。一番人気のワカメややみつきさんま、おにぎりひじき、岩うにホタテなどの海産物、ブドウ、梨、リンゴなどの農産物、お酒や復興ワインなど美味しい物をたくさん買わせていただきました。

シナピスを通じて要請があった個人貸出用のガイガーカウンターや、住民が必要としていた福島診療所の建設資金も送ることができました。また、震災で保護者を失った子供たちの就学援助のための東北未来基金にも送金できました。チャリティーコンサートの収益も送金しました。

最初の一年で、合わせて100万円ほどの援助が出来ました。

それからずっと毎年同じように支援してきました。月1~2万円で集会(お茶っこクラブ)用に、コーヒーとお菓子、夏祭りとクリスマスできましたが、昨年はコロナもあり、月5000円の支援になってました。

そして10年が過ぎ、今年早々カリタス釜石より、活動終了のお便りがとどきました。釜石は放射能の影響も少なく復興も進んでいるようです。

釜石への支援はこの3月で終わりましたが、東北への援助はまだ続けたいと思わないではいられません。福島診療所への援助、東北未来基金への援助、大阪教区の大船渡プロジェクトへの援助は続けたいと思ってます。今まで通り月1回の募金があれば年2万円ほどをそれぞれ支援し続けることができるのです。

これまでの私たちの援助が役に立ったことを思い出し感謝してこれからも東北の復興がなるまで少し私たちが犠牲を払うことができたら嬉しいですね。

長い間支援させてもらって本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

特別寄稿　今、ここにパンの増加の奇跡がある

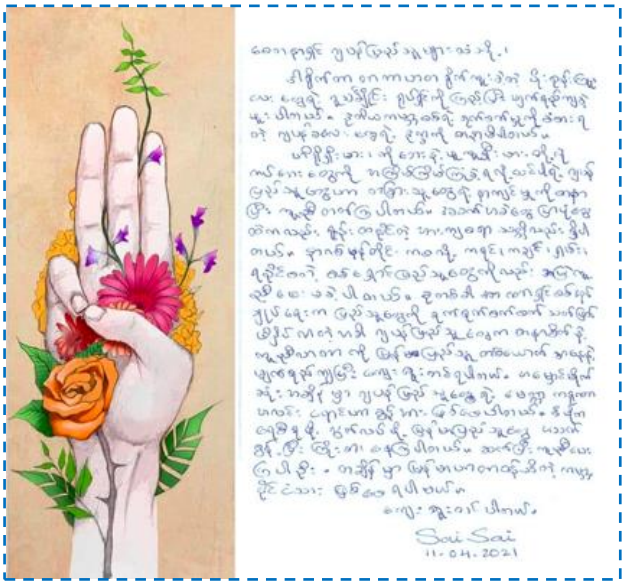
Paul Hata, CP *

毎日のように報道されるミャンマーの現状に、皆さまも心を痛め、何かできないものかと歯痒い思いをされていることと思います。そんな中、朝日新聞４月１５日朝刊には、ミャンマー支援CFでという記事が掲載されました。CFというのは、インターネットを通じて寄付を募るクラウドファンディングのことです。Cのクラウドは大衆、Fのファンドは基金の意味で、目標額と企画をネット上に開示して、多数の少額の寄付者を募り基金を集めます。４月５日に東南アジア研究の研究者たち、今村真央（山形大教授）、根本敬（上智大学教授）、徳丸夏歌（立命館大学准教授）、木内萌乃（エセックス大学大学院生）の４人が発起人になって、CF「緊急支援：クーデター下のミャンマー市民へ医療・食料支援を」立ち上げました。中心になって準備した今村教授は、国境地帯の研究で培った人脈を生かしてミャンマーの複数の市民団体に渡すルートを確保できたとのこと。根本教授は「弾圧の歯止めになり得ていない国際社会と各国政府に、ミャンマー市民は失望を強めている。そんな今だからこそ、市民が動いて連帯し、応援の気持ちを伝える意味は大きい(朝日4.15からの引用)」との根本教授の指摘は、預言的な、私たちに行動を促す力を持っています。わたしも賛同者の一人にと誘われたのですが、まだ入国の機会があると思っていたので、わたしは断りました。しかし、賛同の意を現すため、このネットのアドレスに少額ながら献金をいたしました。

パンの増加の奇跡を思い起こします。5つのパンと2匹の魚、少年の差し出した捧げものを主は祝福して、人々が満腹して食べきれないほどの量に増やされました（ヨハネ６章８～13節）。私たちの捧げものは、心の思いに溢れて（Sym-pathie共苦：Sympathy）捧げるものなので、きっと天に届き、悲しみの聖母マリアの祈りに結ばれて、いま最も必要なものを届けられるように計らっていただけるでしょう。私たちも、悲しみの聖母マリアとともに、ミャンマーの国民の側に寄り添い立つのです。

献金してから、ミャンマーからの一市民の手紙が届きました。

本企画のミャンマー・チーム代表サイサイ（仮名）による手書きのカード・コピーとその日本語訳を皆さまにお届けします。



（カードの日本語訳）
寛大なる日本の友人たちへ

高畑勲監督の映画『火垂るの墓』を観たことがあります。何度も涙を流しました。第二次世界大戦中に日本の子供たちが直面した苦しみがどのようなものであったかを教えてくれました。

ヒロシマ、コーベ、フクシマなど、日本は悲劇的な損失や災害に何度も直面してきました。そのせいでしょうか、日本の皆さんが他人の苦痛に対して非常に繊細なのは。いかにして逆境から――灰の中からでさえも――勇気を持って立ち上がることができるかを、私たちは日本の皆さんから学んできました。日本の皆さんは、2008年のサイクロン・ナルギスの被災者にも、そして何十年に及ぶ内戦の被害を受けてきたカレン、カチン、シャン、アラカンの人たちにも、支援をしてくれました。
いま、テロリストの軍事独裁者は、ミャン

マーのひとびとを残忍なやり方で殺害しています。またしても寛大で情け深い日本の友人たちが我々に手を差し出していることを知り、一人のミャンマー市民として私は涙を流しました。ミャンマーにとって最も苦しいこの時に、日本の友人が見せてくれた慈愛と慈悲は一筋の希望の光です。いま我々は民主主義と自由を得るために命がけで闘っています。どうか支援を続けてください。いつの日かミャンマーも国際社会の責任ある一員になります。

チェーズ―ティンバーデー　サイサイ
（カードの和訳　了）

＊Paul Hata CP（執筆者）の住所と連絡先

ST. Gabriel Retreat House
c/o Sacred Heart Minor Seminary
The Passionist Community in Myanmar
Mayanchaung Village,Pathein P.O.
Avevarwardy Division, Myanmar
Mobile: +95 9893168772

広報委員会註：本クラウド・ファンディング（CF）「緊急支援：クーデター下のミャンマー市民へ医療・食料支援を」の支援に関心のある方はwebサイト

(https://readyfor.jp/projects/justmyanmar21)
が詳述する支援の方法などをお読みください。支援の方法の記述は下記の「プロジェクトの概要」には含まれていません。

ミャンマー緊急支援チーム21#JUST Myanmar 21
（https://readyfor.jp/projects/justmyanmar21）のプロジェクトの概要

目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は支援金を受け取ります（All　in　方式）。原則、支援のキャンセルはできません。支援募集は5月5日（水）午後11:00までです。

支援総額　35,041,000円

NEXT GOAL 15,000,000円(第一目標金額 5,000,000円)
支援者　3,083人
残り　13日

プロジェクト本文

【第1目標達成のお礼とネクストゴールに向けて】（2021年4月6日追記）
クラウドファンディングの開始からわずか25時間で当初の目標金額（500万円）を超えるご寄付をいただきました。あたたかいご支援、本当にありがとうございます。溢れ出るミャンマー市民　への想いが結集し、予想を超える速さとなり、発起人一同、非常に驚いております。
私たちより驚いているのは、我々のミャンマーのパートナーです。皆さまからいただいた応援のメッセージ全てを（機械翻訳を通して）一つ一つを噛み締めるように読んでいて、現在、日本の支援者の皆さまに向けての手紙を書いているとのことです。この手紙は、近日中にこのページで皆さんと共有いたします。
しかし、残念なことに、ミャンマーの政治状況に好転の兆しは全く見えません。プロジェクトを立ち上げた4月5日にも、ミャンマー国軍は市民に対して残虐な暴行を振るい、少なくとも2名の射殺と複数の負傷者があったと報告されています。各地で拘束や指名手配が広がり、都市部から農村部に移り、身を隠す市民が急増しています。また少数民族地域でも、国軍による攻撃が激化し、避難民が増えている状態です。医療・食糧支援のニーズは広がり続けています。

日本からの想いをできるだけ多くのミャンマー市民へ届けたい――。私たちは、ミャンマーとタイのパートナーと話し合い、本プロジェクトの支援金が一人でも多くの人に届くように、より広範囲での支援活動を目指すことにしました。

引き続き、ご支援と応援をよろしくお願いいたします。

発起人一同

■目標金額：1,500万円

■支援金の使途：

緊急治療費、医療物資費、簡易診療所運営費
4,200,000 円

市民不服従運動(CDM)参加中の公務員支援費
3,600,000 円

避難所の運営費（食糧費を含む）
3,600,000 円

避難所用の通信料
480,000 円

救援用の交通費（ガソリン代等）
315,000 円

手数料（クラウドファンディング会社）
2,085,000 円

必要金額合計:
15,000,000 円

※支援金の使途は、経費を含め、明細を8月末までに報告します。なお、緊急支援という性質上、現場のニーズに応じて使途の変更を余儀なくされることがあります。その場合でも、人道支援／医療支援を大前提として、支援金を有効に活用します。

※本プロジェクトはAll-Inでの実施となります。そのため、支援総額が期日までに目標金額に届かなかった場合でも、クラウドファンディングサービス手数料、諸経費を除いた支援金を2021年8月15日までに、タイの団体「社会に関わる仏教徒の国際ネットワーク」（International Network of Engaged Buddhists：INEB)を経由して、ミャンマーの市民団体ネットワークへの送金を実行いたします。

支援金を受け取るミャンマーの市民団体ネットワーク

本プロジェクトで集められた支援金は、ミャンマー全土で長年コミュニティの復興・再建に寄与し、国内外で高く評価されている市民団体ネットワークに送ります。ミャンマーの市民団体にとって、国外からの募金を公に受け取ることは現時点で高いリスクを伴うため、市民団体の名称は現時点では公表できません。ミャンマー国内の状況が改善した時点で、名称を公表します。

この市民団体は、職業訓練所や児童教育施設の設置を通して、平和構築活動を率先して行ってきました。2008年にミャンマーで14万人の命を奪ったサイクロン・ナルギスの被災地でも、迅速かつ広範な支援活動に成功しました。このNGOは、国土全域を網羅するネットワークがあり、国内外で高く評価されています。

タイのパートナーと共に送金を実施いたします

現在、ミャンマー国内の銀行が機能していないため、本プロジェクトでは受け取った支援金の全額を、タイの団体「関与する仏教徒の国際ネットワーク」(International Network of Engaged Buddhists：INEB)経由でミャンマーに送金します。INEBは、タイの著名な評論家であり、「社会に関与する仏教」の提唱者であるスラック・シワラック氏が設立した団体です。INEBは手数料を一切取らずに、タイで受け取った支援金をすべて、物資もしくは現金で、支援を必要とするミャンマーの人々に届けます。

2008年のサイクロン・ナルギス災害の際も、ミャンマー政府による支援金の横領などが起こったため、日本を含め国外からの民間団体が隣国経由で被災地に支援を届けました。本プロジェクトでは、日本とタイのチームが協力して、支援金を円滑にミャンマーに送り届けます。（タイ経由の送金をなんらかの理由で避けなければいけない場合は、インド経由で実施いたします。）

プロジェクト発起人

ミャンマー緊急支援チーム21＃JUST　Myanmar21は、2021年2月1日の軍事クーデターと市民不服従運動を受けて、ミャンマーと関わりの深い研究者、NGO活動家、ジャーナリスト、学生を中心に結成されました。

根本敬（上智大学教授）

2016年までNGOビルマ市民フォーラムの理事。専門はビルマ近現代史。

中尾恵子（日本ビルマ救援センター代表）

2000年より日本ビルマ救援センター（BRC-J）代表。ミャンマーへの医療支援に従事。

鬼塚チェイス円（ヨーガ療法士/翻訳家）

1995年からミャンマー関連のNGOで活動。現在、開発援助を監視するNPOの理事。

今村真央（山形大学教授）

2002年からミャンマー国境地域での調査を継続中。専門はミャンマー国境史。

徳丸夏歌（立命館大学准教授）

「ミャンマー（ビルマ）の人びとによる民主化運動を支持する在日本有識者・ジャーナリスト声明」事務局代表。

木内萌乃（エセックス大学院生）

学部在学中からミャンマーで国内避難民の支援事業に携わる。専門は難民ケア。

黙想会のお知らせ
宝塚黙想の家

■日帰り黙想会　10：00～15:30
5月6日（木）
指導：染野 治雄 神父
5月25日（火）
指導：稲葉　善章 神父
5月28日（金）
指導：山内 十束 神父

■ 一泊黙想会
5月25日（火）17：00～26日（水）15：30
指導：稲葉　善章 神父
5月29日(土）17：00～30日（日）15：30
指導：山内　十束 神父

■ 祈りを深めるための聖書の基本
第１・３ 水曜日　10:00 ～ 12:00
指導：山内　十束 神父

■ カトリック教会のカテキズム
第２・４ 水曜日　10:00 ～ 12:00
指導：染野　治雄 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎0797（84）3111

今月の表紙の写真について

「糸車の聖母」と称されるレオナルド・ダ・ヴィンチの作品である。1499年以降に描かれたもので、ダ・ヴィンチと弟子との合作と言われている。幼子イエスを抱きかかえて、屋外に座る聖母マリア。その表情はダ・ヴィンチ特有の慈愛と悲しみが入り混じったような、仏像の顔にも似ていないでもいない、微妙な感情をたたえている。イエスが持っている、紡いだ糸を巻く「かせとり棒」は聖母マリアの暮らしを思わせつつ、先端が十字架をかたどる。イエスは聖母の抱擁から逃れるように身をよじって、自分の使命となる十字架、かせとり棒の先端をひたと見つめ続ける。マリアの右手は恐れとためらいと愛情を示すかのように半ば開かれて、イエスの体からそっと離れている。

この作品はランズダウン侯爵家の持ち物だったので、ほかの類似作品と区別するために「ランズダウンの聖母」と言われている。この構図はあとに続くラファエロなどに大きな影響を与えた。五月は聖母マリアを思う月である。

編　集　後　記

トマス･アクィナスの言葉に「愛あるところ、そこに眼がある」というものがあるそうです。「恋は盲目」とは逆に、愛しているからこそ他の人が気づかない、そのものの真の姿が見えてくる、といった意味であるとのこと。

確かに、何かを好きになることによって新たに見えてくるものがあります。去年から子供を連れて公園に散歩に出かけるようになり、そこに季節ごとに沢山の花が咲いていることに改めて気がつきました。花の名前を覚えてゆくと花季が終わってもその存在が気になり、次のシーズンが楽しみになります。私の中で「花への愛」が増したのでしょう。それまでは見落としていたり、「名もなき花」だったものが、今では生活に彩りを与えてくれています。

花に限らず、世の中に満ちている善きものに目を向けられるように心にゆとりを持っていたいものです。

パウロ